



生徒指導部から（2・3年生へ）
== 未来の花を咲かせるために ==
2026年5月22日

総体予選が佳境を迎えています。多くの部活動生、特に3年生は、ここで勝つことを目標にたくさんの時間を費やしてきたと思います。その目標のために、部活動で学んだことが数え切れないほどあるはず。困難を克服すること、苦境に立ち向かう姿勢、諦めない心、努力する力・・・部活動の目標への歩みはいつか終わりますが、人間性を高めるといふ部活動の目的はこれからも形を変えずと続きます。部活動で学んだことをこれからの生き方に映してこそ、高校時代の部活動がより輝かしいものになります。このことは部活動に限らず、資格取得などを目標に努力している人も同じでしょう。

高校生活でたくさんの苦楽を経験し、何よりも自分が自分の一番の応援団となって、目標に向かって努力し続けられるかっこいい人に成長してください。

『見通すちから』

明日の天気予報が雨なので雨具を準備する。 3日後の頭髪服装指導のために整髪に行く。
定期考査のために一週間の勉強計画を立てる。 1ヶ月後の就職試験のために面接練習をする。
半年後の試合のためにフォーム改造に取り組む。 1年後の・・・、2年後の・・・

あなたは、どのくらい先まで見通して、今を過ごしていますか。
「進路目標を早めに立て、努力を積んでいきましょう。」とは、よく言われることです。
自分のなりたい自分を見つけること。そのためにどれくらいの頑張りが必要か知ること。
それが、『見通すちから』です。

『見通すちから』のない人は、手に入れたいものを手に入れることができません。
手に入らないことへの不満を口にするだけで、続けて頑張ることができません。
どう頑張っているのか、分からなくなっているのかもしれない。

まずは、明日のために今日の生活を考えてみましょう。
それができれば、次は、3日後のために。そして、1ヶ月後のために、何かを始めましょう。
そうすれば、どんどん先を『見通すちから』が身についていくはず。
これまでの生活が場当たり的だった人、『見通すちから』が不足している証拠です。
手に入れたいものが自分から離れていきますよ。
自分をあきらめないために『見通すちから』を身につけて、
その見通しを実現されるまで、努力を続けていきましょう。



あなたたちがかっこいいと憧れる人たちは、
『見通すちから』をもって、頑張り続けている人たちです。

3年生へ・・・18歳は狙われる

令和4年から、成人年齢が18歳に引き下げられました。保護者の同意のない契約であれば、取り消せる「未成年者取消権」は適用されません。国民生活センターは、気をつけてほしい消費者トラブルを挙げ、注意を呼びかけています。

具体例

SNSの広告を見て、脱毛エステ無料体験に行った。継続の契約を強く迫られ、12回のコースと美容器具を20万円で契約。支払いの不安から解約を申し出たところ、違約金として6万円の支払いを求められた。

社会経験がまだ乏しいことや異性への関心が強い年頃であることをトラブルの背景として挙げています。ネット上には投資や美容で成功したインスタグラマーらの体験談があふれ、それを鵜呑みにし、リスクを理解せず安易に手を出して被害に遭うケースが多いようです。

悲しいことですが、世の中には、人をだまして、自分の欲求を満たそうとする人がいます。そんな悪意が、成人年齢引き下げを好機と捉え、18歳を狙っているのです。そうでなくとも、インターネット上で契約が容易に完結してしまうことの危険性を十分理解しておくべきです。

手を変え、品を変え、悪意はあなたたちをだまそうと手を伸ばしてきます。とにかく、迷ったら絶対に踏み出さないことです。



2年生へ・・・まず行動を

ステイヴ・チャンドラーの『なりたかった自分になるのに遅すぎることはない』という本に次のような対話が続いています。「やる気が出ない」と、ぼやく人との問答です。

「朝、走ろうと思っているのですが、やる気が出ません。」
「朝、走ればいいのです。」
「でも、走りたくないんです。」
「それはまだ走っていないからです。」
もし走れば、すぐに走りたくなってきます。」

結局、この例が示しているのは、「まず行動しなさい」ということです。頭の中で、あれこれと思い悩むよりも先に身体を動かしてしまえ、というアドバイスです。

「やる気」が先にあつて、そこから「行動」が引き出されるものだと思いますが、それとは逆に、「行動」を先に起こしてしまうことで「やる気」が引き出されることがほとんどだそうです。やる気は自分自身の成功体験が生むのですから、当たり前です。感情というものは、行動の後に引っ張られるようにして出てくることが多いのです。

2年生に進級し、部活動も代替わりが近い。資格取得にも力を入れないと、「やる気が出ない」なんて言っている場合ではありません。自分に「やる気」を持たせることは、社会に出ても必要なことです。そのためには、まずは動くこと、です。

